

自然の大切さ 次世代へ 伝えよう



全国豊かな海づくり大会で、瀬尻小学校が功績団体表彰「漁場・環境保全部門大会会長賞」を受賞。この記念を証とし、自然環境保全の大切さを地域住民や子どもたちが考え、次世代へ伝えることを目的に、

各務用水堤防沿いに桜の植樹を全校児童で実施しました。各クラス単位で思いを込めて、手作りで書いた「寄せ書き看板」もあわせて設置。ふるさとの自然を誇りに思い、守っていくことを全員で誓いました。

あんな事、こんな事



秋の洞戸路を疾走

今年で20回目の節目を迎えた「2010 ほらどキウイマラソン大会」が洞戸事務所前を発着点に開かれ、多くの市民ランナーたちが秋深まる洞戸路を駆け抜けました。県内外から過去最多の約2,900人が出場。好記録を狙うアスリートたちが白熱したレースを展開したほか、家族連れが自分たちのペースでゴールを目指し、さわやかな汗を流しました。沿道の観衆からも温かい声援が送られていました。

お兄さんお姉さんからプレゼント

ものづくりで地域に貢献しようと関商工高校建設工学科の生徒が、自分たちが製作したプランターボックスなどを南ヶ丘保育園に寄贈しました。文化祭の一環で製作し、ストラップやマグネットなども作りました。大好きなアニメキャラクターが上手に描かれたプランターで、園児たちは毎日、花と絵を見て和んでくれるでしょう。





松ぼっくりで正月飾り

武芸川町跡部川北で「ふれあいいきいきサロン」があり、大きな松ぼっくりを使って一足早い正月飾りを制作しました。同サロンでは介護予防と福祉文化活動を目的に、季節に合わせたさまざまな催しをしています。この日は、約10センチある松ぼっくりに折り鶴を飾ったり、アカマツの葉や小ぶりのゆず、カラスウリや稲穂を添え、最後に水引を飾って完成。参加者は、とても楽しく作業していました。

孤立した魚を救出

長良川の導流堤の損壊で干上がった分流の今川で、地域住民が川に架かる橋の橋脚付近に残った水たまりに取り残された生物を保護、本流に戻す作業がありました。魚などをタモですくい上げて捕獲。種類を確認しながら、川上へ搬送して放流する作業を繰り返しました。川が育んだ多くの生物の命を救うとともに、また戻ってきてくれることを願いました。



木の枝で笛とお箸を作ったよ

自然がいっぱいの環境を生かして、親子で「木」にふれあう木育教室が富野保育園で開かれ、全園児が参加して「ブーブー笛」と「マイ箸」作りに挑戦しました。太い木の枝をくりぬいてリードをはめ込み、細い枝にカッターナイフや紙やすりなどを使って上手に仕上げました。園児らは出来上がった笛を一斉に吹き、おもしろい音を出して笑顔でしゃがいでいました。

言葉を超えるコミュニケーション

武儀西小学校の全校児童が大小さまざまな打楽器をたたき「ドラムサークル」で、自由な即興演奏を楽しみました。親子で直径20メートルの輪になって、みんなの音をよく聞きながら、太鼓を同じリズムで強弱をつけてたたき、元気よくまとまって文字通り1つのサークルになっていました。児童らは、リズムによる人と人とのコミュニケーションを体感していました。



こぼれ話



11月に「田原見守りボランティア」の皆さんが、平成17年12月の発足以来、小中学校の登下校の見守り活動などの地域活動が認められ、文部科学大臣賞「学校安全ボランティア活動奨励賞」を受賞されました。

地元の自治会をはじめとする各種団体や個人の皆さんが、子どもたちの安全のためにと自発的に参加し、地域ぐるみで取り組んでいらっしゃいます。

代表の神谷さんからは「決して無理をしないこと」

「子どもたちに挨拶をすることはもちろん、運転手の方にも会釈するなど感謝の気持ちを伝えることも大切なこと」などのお話を伺い、今ではドライバーの方からも声をかけてもらえるなど、地域の皆さんと道路を利用する皆さんが一体となった取り組みになっています。

私もPTAなどで決められた日に当番で、交通安全や挨拶運動に出かけることはありますが、義務的な取り組みと自発的な取り組みの差を感じました。

私もボランティアの方々に感謝をしながら、交通事故防止の意識向上に努めたいと思います。